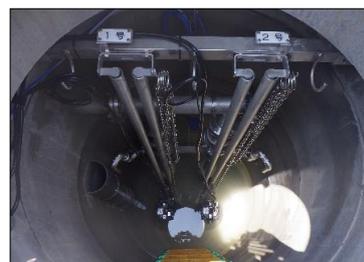


環境経営レポート



運用期間 2023年 6月 ～ 2024年 5月

2024年 9月発行

株式会社 アクア

目 次

I. 環境経営方針 P. 1
II. 会社概要 P. 2
III. 環境経営目標・具体的内容 P. 4
IV. 2022年度環境経営活動実績(2022年6月～2023年5月) P. 5
V. 環境経営活動の取り組み結果の評価、次年度の取組内容 P. 7
VI. 環境関連法規等の取りまとめ P.12
VII. 代表者による評価と見直しの結果 P.13

I 環境経営方針

株式会社アクアは、上下水道施設の機械電気設備の設計から建設・整備工事及び製品販売の事業活動において環境負荷の低減を図るために、全社一体となって積極的に取り組みます。環境に関する法規制等を遵守するとともに環境経営の継続的改善に取り組み、多種多様なエンジニアリングを提案することにより、環境保全に貢献してまいります。

【環境保全への具体的取組み】

1. 事業活動において使用する電力・燃料に伴う二酸化炭素排出量の削減を目指します。
2. 事業活動における廃棄物の管理を行い、意識改善に取り組みます。
3. 事業活動において水の使用量を削減、節水に努めます。
4. 化学物質の使用量削減に努めます。
5. 人材の育成を強化し、従業員のキャリアアップに取り組みます。
6. 環境改善に貢献する施工・エンジニアリングに取り組みます。
7. 環境改善に貢献する設計・技術提案に取り組みます。
8. この方針を全社員が理解するための教育を実施し、環境保全が普及していくことを目指します。
9. 環境経営レポートを作成し公表します。

制定 2011年 7月 23日

改訂 2024年 6月 7日

株式会社 アクア
代表取締役 織田 誠一

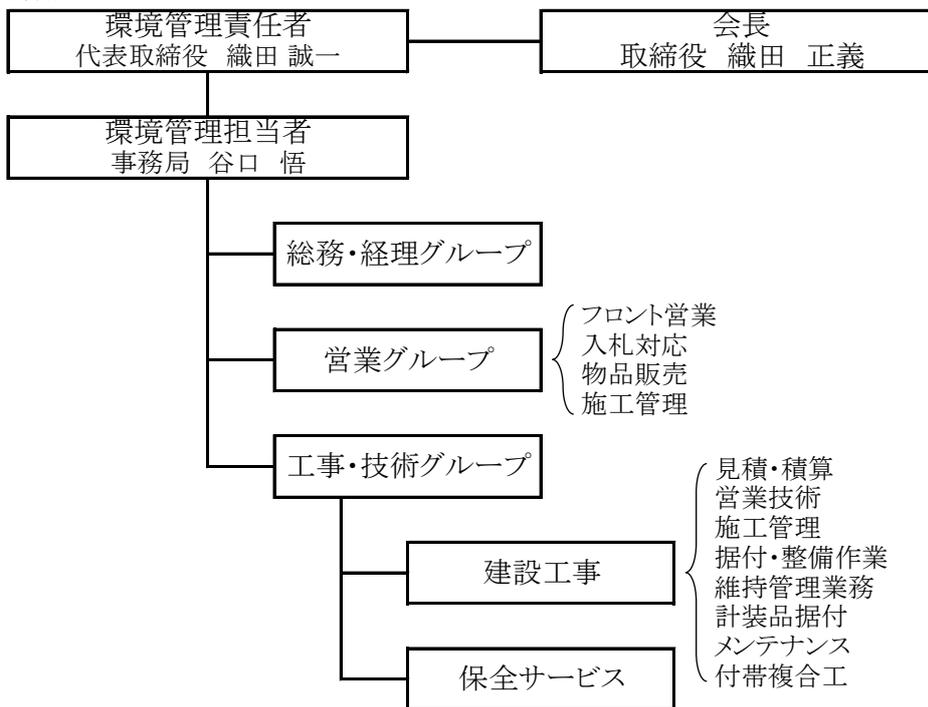
Ⅱ 会社概要 Company Profile

- ・商号 株式会社 アクア
- ・代表者氏名 代表取締役 織田 誠一
- ・所在地 〒733-0035
広島市西区南観音4丁目4番14号
- ・環境管理責任者 代表取締役 織田 誠一
- ・環境管理担当者 工事・技術グループ 谷口 悟
- ・電話番号 082-297-3650 (代表)
- ・設立 平成 4年 6月
- ・資本金 30,000千円
- ・事業内容 上下水道向機械装置(ポンプ・バルブ・ゲート・水処理装置)の販売・据付・維持管理
計装システム機器の販売・維持管理
電気・計装・通信設備及び配電盤・各種制御装置・各種操作盤の設計施工
- ・EA21対象範囲 上記事業内容を対象とする
- ・許可番号 広島県知事許可(特-1) 第 25350号
電気工事・機械器具設置工事・水道施設工事・管工事・土木工事・とび土工・
鋼構造物工事・舗装工事・塗装工事
広島県知事許可(般-1) 第 25350号
電気通信工事
広島県知事(届21) 第 1334号
特例浄化槽工事
ISO 9001 : 2015 登録番号C2017-01520-R1
エコアクション21 登録番号0008000
- ・売上高 696 百万円 (令和5年度)
- ・従業員数 28 名
- ・事業所の延べ床面積 380 m²
- ・工事の件数 浄水場・処理場機械設備工事 元請:50件 下請:13件
浄水場・処理場機電気備工事 元請:27件 下請:22件
雨水排水機場設備工事 元請:10件 下請: 3件

実施体制

環境管理組織図

令和6年6月1日 時点



	役割・責任・権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用、時間、技能、技術者を用意 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 目標設定および環境経営計画書の承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 (織田 部長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 法規制等の要求事項登録簿を承認 環境経営計画書を作成 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
事務局 (谷口)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営レポートの作成 各種情報の取りまとめ、文書類の作成
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針を理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

Ⅲ環境経営目標・具体的内容

環境経営目標設定書

承認	照査	作成
織田	織田	谷口

作成日：2023年 6月 5日 改訂日： 年 月 日

P 1/1

環境経営方針 (キーワード)	環境目標項目 (負荷の自己チェックを踏まえて作成)	基準値 (2022年度)		年度毎目標・達成手段 (取り組みの自己チェックを踏まえて策定)								
		項目	実績数値	2023年度			2024年度			2025年度		
				目標率	目標数量	備考	目標率	目標数量	備考	目標率	目標数量	備考
二酸化炭素 排出量の削減	電力の二酸化炭素 排出量削減	電気使用量	低压電力	2kWh/年	+ 0%	2kWh/年	+ 0%	2kWh/年	+ 0%	2kWh/年	+ 0%	2kWh/年
			従量電灯B	19,439kWh/年	▲ 1%	19,245kWh/年	▲ 2%	19,050kWh/年	▲ 3%	18,856kWh/年		
		電気代	低压電力	30,880円/年	+ 0%	30,880円/年	+ 0%	30,880円/年	+ 0%	30,880円/年		
			従量電灯B	718,108円/年	▲ 1%	711,000円/年	▲ 2%	704,000円/年	▲ 3%	697,000円/年		
		CO2排出量 (換算値0.521kg- CO2/kWh)	総電力量	19,441kWh/年	▲ 1%	19,247kWh/年	▲ 2%	19,052kWh/年	▲ 3%	18,858kWh/年		
			換算値	10,129kg-CO ₂ /年	▲ 1%	10,027kg-CO ₂ /年	▲ 2%	9,926kg-CO ₂ /年	▲ 3%	9,825kg-CO ₂ /年		
	★電気使用量の削減 を具体的目標とする	節電運動 ・不要な照明の消灯 消忘れ注意 ・不要な機器の電源OFF PC、扇風機 ・エアコン設定温度厳守(夏28℃・冬22℃) ・事務所以外の照明をLED化検討		節電方法の再検討 ・前年度以下を目指す			節電方法の再検討 ・前年度以下を目指す			節電方法の再検討 ・前年度以下を目指す		
	自動車の燃費向上 ★ガソリンの削減	ガソリン給油量 (概算)	19,755ℓ/年	▲ 1%	19,557ℓ/年	▲ 2%	19,360ℓ/年	▲ 3%	19,162ℓ/年			
		ガソリン代	3,062千円/年	▲ 1%	3,031千円/年	▲ 2%	3,001千円/年	▲ 3%	2,970千円/年			
		燃費	16.1km/ℓ	+ 1%	16.3km/ℓ	+ 2%	16.4km/ℓ	+ 3%	16.6km/ℓ			
CO ₂ 排出量		45,831kg-CO ₂ /年	▲ 1%	45,373kg-CO ₂ /年	▲ 2%	44,915kg-CO ₂ /年	▲ 3%	44,456kg-CO ₂ /年				
エコドライブ運動の定着化 ・経済的なルートを選定 ・急発進・急加速の抑制 ・タイヤの空気圧を適正値に		エコドライブ運動の定着化 ・前年度以下を目指す			エコドライブ運動の定着化 ・前年度以下を目指す			エコドライブ運動の定着化 ・前年度以下を目指す				
その他CO ₂ 排出量		灯油、軽油、現場使用の電力・ガソリン等	7,957kg-CO ₂ /年	▲ 1%	7,877kg-CO ₂ /年	▲ 2%	7,797kg-CO ₂ /年	▲ 3%	7,718kg-CO ₂ /年			
CO ₂ 合計排出量	電力、自動車、その他の合計	63,917kg-CO ₂ /年	▲ 1%	63,277kg-CO ₂ /年	▲ 2%	62,638kg-CO ₂ /年	▲ 3%	61,999kg-CO ₂ /年				
省資源	節水	節水運動 ・トイレの節水 ・洗車・散水の抑制		節水運動 ・前年度以下を目指す			節水運動 ・前年度以下を目指す			節水運動 ・前年度以下を目指す		
		・保存を電子メディアにより用紙削減を推進する ・再利用紙(裏紙)の使用…社内書類		・電子メディアによる電子化 ・前年度以下を目指す			・電子メディアによる電子化 ・前年度以下を目指す			・電子メディアによる電子化 ・前年度以下を目指す		
	コピー、プリンター 用紙の削減	・両面印刷等を有効利用して枚数削減する ・会議でのペーパーレス化継続										
		事務所内で発生する廃棄物の適正分別		適正管理の確認			適正管理の確認			適正管理の確認		
		建設廃棄物のリサイクルの推進		可能な限り、リサイクルの推進に努める			可能な限り、リサイクルの推進に努める			可能な限り、リサイクルの推進に努める		
		-		前年度の継続して、新技術の習得を図る			適正管理の確認			適正管理の確認		
		対象物質の適正管理		排出量の把握に努める			排出量の把握に努める			排出量の把握に努める		
		環境に配慮した施工方法の提案		適正な施工管理の確認			適正な施工管理の確認			適正な施工管理の確認		
環境に配慮した製品販売・技術提案		適正な製品管理の確認			適正な製品管理の確認			適正な製品管理の確認				
廃棄物	一般廃棄物の分別	事務所内で発生する廃棄物の適正分別		適正管理の確認			適正管理の確認			適正管理の確認		
	建設副産物の削減	建設廃棄物のリサイクル率の向上		リサイクル率80%以上			リサイクル率80%以上			リサイクル率80%以上		
人材育成	従業員のキャリアアップ	-		施工管理技士資格取得の支援、各種講習会への参加			前年度の継続して、新技術の習得を図る			適正管理の確認		
化学物質	適正使用	対象物質の適正管理		適正管理の確認			適正管理の確認			適正管理の確認		
事業活動による取組み	環境に配慮した施工		適正な施工管理の確認			適正な施工管理の確認			適正な施工管理の確認			
	環境に配慮した製品販売・技術提案		適正な製品管理の確認			適正な製品管理の確認			適正な製品管理の確認			

2023年度 環境経営計画書 (1)

活動期間 2023/6/1~2024/5/31

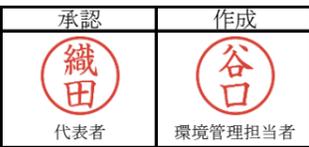
承認	作成
代表者	環境管理担当者

作成日: 2024年 6月 4日 評価日: 2024年 6月 5日 改訂日: 年 月 日

環境経営方針	環境経営目標	責任部門など	基準値、(基準年)、年度目標値、累計達成状況	目標達成手段	スケジュール(目標、実績)												達成状況 / 是正策 (実施責任者)	評価 / 指示 (環境管理責任者・代表者)			
					6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月					
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素排出量削減	環境管理責任者 織田 誠一	基準値 10,128 kg-CO ₂	節電運動	基準年	使用量(kWh)	1,460	2,153	2,672	1,823	1,271	1,340	1,764	1,754	1,736	1,439	1,098	931	8月	電力使用量とCO ₂ 排出量は基準年より減少した。	基準年の実績水準を維持し、増加しないように意識付けを行う。
			基準年 2022 年度	・不要な照明の消灯		月次 CO ₂ 排出量	761	1,122	1,392	950	662	698	919	914	904	750	572	485			
			年度目標 10,027 kg-CO ₂	・不要な機器の電源OFF		累計 CO ₂ 排出量	761	1,882	3,274	4,224	4,886	5,585	6,504	7,417	8,322	9,072	9,644	10,128			
			基準年度比 ▲101 kg-CO ₂	・エアコン設定温度厳守 (夏28℃・冬20℃)	目標	使用量(kWh)	1,445	2,131	2,645	1,805	1,258	1,327	1,746	1,736	1,719	1,425	1,087	922	11月	同上	同上
			削減率 ▲1.0%			月次 CO ₂ 排出量	753	1,110	1,378	940	656	691	910	905	895	742	566	480			
						累計 CO ₂ 排出量	753	1,864	3,242	4,182	4,838	5,529	6,439	7,343	8,239	8,981	9,547	10,027			
			累計目標 10,027 kg-CO ₂	注)排出係数についてはR1年中国電力調整後排出係数を使用(0.521 kg-CO ₂ /kWh)	実績	使用量(kWh)	1,111	1,691	2,025	1,423	976	1,384	1,624	1,652	1,487	1,576	1,196	943	2月	同上	同上
			累計実績 8,902 kg-CO ₂			月次 CO ₂ 排出量	579	881	1,055	741	508	721	846	861	775	821	623	491			
			達成率 111.2%			累計 CO ₂ 排出量	579	1,460	2,515	3,256	3,765	4,486	5,332	6,193	6,967	7,788	8,412	8,902			
						評価	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	総括	電力使用量とCO ₂ 排出量は基準年より減少し、目標を達成できた。	電力使用量とCO ₂ 排出量は、年度の業務量により増減するため、燃費向上に注力し使用量削減を目指す。
二酸化炭素排出量削減	自動車燃料による二酸化炭素排出量削減	総務・経理グループ 新屋 活子	基準値 45,831 kg-CO ₂	エコドライブ運動の定着化	基準年	使用量(ℓ)	1,970	1,870	1,704	1,493	1,555	1,292	1,775	1,558	1,927	1,622	1,383	1,607	8月	ガソリン使用量とCO ₂ 排出量は基準年より減少した。	現在の水準を維持する。
			基準年 2022 年度	・経済的なルートの選定		月次 CO ₂ 排出量	4,571	4,339	3,954	3,463	3,606	2,997	4,117	3,615	4,471	3,763	3,208	3,729			
			年度目標 45,373 kg-CO ₂	・急発進,急加速の抑制		累計 CO ₂ 排出量	4,571	8,910	12,864	16,326	19,933	22,929	27,046	30,661	35,132	38,895	42,103	45,831			
			基準年度比 ▲459 kg-CO ₂	・タイヤの空気圧を適正値に	目標	使用量(ℓ)	1,950	1,851	1,687	1,478	1,539	1,279	1,757	1,543	1,908	1,606	1,369	1,591	11月	ガソリン使用量とCO ₂ 排出量は基準年を上回った。	引き続きエコドライブ運転の推進し、経済的なルートの選定に注力する。
			削減率 ▲1.0%			月次 CO ₂ 排出量	4,524	4,296	3,915	3,428	3,570	2,967	4,076	3,579	4,426	3,725	3,176	3,692			
						累計 CO ₂ 排出量	4,524	8,820	12,734	16,162	19,732	22,699	26,775	30,354	34,780	38,505	41,681	45,373			
			累計目標 45,373 kg-CO ₂	ガソリン二酸化炭素排出(発熱量34.6MJ/ℓ×排出係数0.0671kg-CO ₂ /mℓ)	実績	使用量(ℓ)	1,430	1,634	1,823	1,871	1,808	1,729	2,003	1,500	2,050	1,792	1,607	1,423	2月	同上	同上
			累計実績 47,952 kg-CO ₂			月次 CO ₂ 排出量	3,318	3,790	4,228	4,341	4,195	4,012	4,647	3,479	4,756	4,157	3,729	3,300			
			達成率 94.3%			累計 CO ₂ 排出量	3,318	7,108	11,337	15,677	19,872	23,884	28,532	32,011	36,767	40,924	44,653	47,953			
						評価	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	総括	ガソリン使用量とCO ₂ 排出量は目標値をやや上回り未達成であった。売上高が前年より21%程度増加したことにより車両を使用する頻度が増加したためと思われる。	その年の業務形態により変動する可能性があるため、燃費向上の意識は継続する。
水使用量削減	節水	工事・技術グループ 谷口 悟	基準値 142 m ³	節水運動	基準年	月次 使用量(m ³)		24.0		23.0		23.0		23.0		25.0		24.0	8月	水道使用量は基準年より減少した。	基準年の実績水準を維持し、増加しないように意識付けを行う。
			基準年 2022 年度	・トイレの節水		累計 使用量(m ³)		24.0		47.0		70.0		93.0		118.0		142.0			
			年度目標 141 m ³	・洗車,散水の抑制		月次 使用量(m ³)		23.8		22.8		22.8		22.8		24.8		23.8			
			基準年度比 ▲1.4 m ³		目標	累計 使用量(m ³)		23.8		46.6		69.3		92.1		116.9		140.6	11月	同上	同上
			削減率 ▲1.0%			月次 使用量(m ³)		24.0		24.0		19.0		19.0		18.0		21.0			
						累計 使用量(m ³)		24.0		48.0		67.0		86.0		104.0		125.0			
			累計目標 141 達成率		実績	月次 使用量(m ³)		24.0		24.0		19.0		19.0		18.0		21.0	2月	同上	同上
累計実績 125 111.1%		累計 使用量(m ³)		24.0			48.0		67.0		86.0		104.0		125.0						
			評価		○		×		○		○		○		○	総括	水道使用量は基準年より向上して、目標値を達成できた。	その年の業務形態により変動する可能性があるため、使用量減少の意識は継続する。			
用紙使用量削減	コピー・用紙の削減 プリンター	総務・経理グループ 新屋 活子	基準値 135,000 枚	・電子メディアを活用し、用紙削減を推進する	基準年	月次 購入量(枚)	15,000	20,000	10,000	15,000	5,000	15,000	10,000	10,000	10,000	15,000	5,000	5,000	8月	コピー・プリンター用紙の使用量は目標値を上回った。	基準年の実績水準を維持し、増加しないように意識付けを行う。
			基準年 2022 年度	・再利用紙(裏紙)の使用...社内用紙		累計 購入量(枚)	15,000	35,000	45,000	60,000	65,000	80,000	90,000	100,000	110,000	125,000	130,000	135,000			
			年度目標 133,650 枚	・両面印刷等を有効利用して枚数削減する		月次 購入量(枚)	14,850	19,800	9,900	14,850	4,950	14,850	9,900	9,900	9,900	14,850	4,950	4,950			
			基準年度比 ▲1,350 枚	・会議でのペーパーレス化継続	目標	累計 購入量(枚)	14,850	34,650	44,550	59,400	64,350	79,200	89,100	99,000	108,900	123,750	128,700	133,650	11月	同上	同上
			削減率 ▲1.0%			月次 購入量(枚)	10,000	10,000	20,000	10,000	10,000	10,000	5,000	10,000	10,000	15,000	10,000	15,000			
						累計 購入量(枚)	10,000	20,000	40,000	50,000	60,000	70,000	75,000	85,000	95,000	110,000	120,000	135,000			
			累計目標 133,650 達成率		実績	月次 購入量(枚)	10,000	10,000	20,000	10,000	10,000	10,000	5,000	10,000	10,000	15,000	10,000	15,000	2月	同上	同上
累計実績 135,000 99.0%		累計 購入量(枚)	10,000	20,000		40,000	50,000	60,000	70,000	75,000	85,000	95,000	110,000	120,000	135,000						
			評価	○	○	×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	総括	コピー・プリンター用紙の購入量は基準年と同等だったが、目標値を達成できなかった。	その年の業務形態により変動する可能性があるため、使用量減少の意識は継続する。			

2023年度 環境活動計画書 (2)

活動期間 2023/6/1～2024/5/31



作成日: 2024年 6月 4日 評価日: 2024年 6月 5日 改訂日: 年 月 日

環境経営方針	環境経営目標	責任部門など	基準値、(基準年)、年度目標値、累計達成状況	目標達成手段	スケジュール(目標、実績)												達成状況 / 是正策 (実施責任者)	評価 / 指示 (環境管理責任者・代表者)						
					6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月								
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	環境管理責任者 織田 誠一	基準値 1,270 kg	・一般廃棄物の分別	基準年	月次 排出量(kg)	100	120	120	100	80	140	120	110	130	110	90	100	8月	一般廃棄物の排出量は基準年の実績をやや上回った。	基準年の実績水準を維持し、増加しないように意識付けを行う。			
			基準年 2022 年度	・事務所内で発生する廃棄物の適正処分	累計 排出量(kg)	100	220	340	440	520	660	780	890	1,020	1,130	1,220	1,320							
			年度目標 1,270 kg		目標	月次 排出量(kg)	100	120	120	100	80	140	120	110	130	110	90	100			11月	同上	同上	
			基準年度比 0 kg		実績	月次 排出量(kg)	90	110	160	100	100	70	100	100	80	180	100	150			2月	同上	同上	
			削減率 0.0%		累計 排出量(kg)	90	200	360	460	560	630	730	830	910	1,090	1,190	1,340							
			累計目標 1,270 達成率		評価	〇	〇	×	〇	×	〇	〇	〇	〇	×	×	×				総括	一般廃棄物の排出量は目標値を上回り未達成であった。	その年の業務形態により変動する可能性があるため、使用量減少の意識は継続する。	
			累計実績 1,340 94.5%																					
廃棄物排出量削減	リサイクル率の向上	環境管理責任者 織田 誠一	基準値 - %	・再生建設資材の利用	基準年	月次 リサイクル率(%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	8月	継続的なリサイクル率向上への取組により、目標を達成した。	現在の水準を維持する。			
			基準年 - 年度	・再資源化施設への搬送、適正処分	累計 リサイクル率(%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/					
			年度目標 80.0 %		目標	月次 リサイクル率(%)	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0			11月	同上	同上
			基準年度比 - %		実績	月次 リサイクル率(%)	100.0	100.0	-	100.0	86.5	73.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			2月	同上	同上	
			削減率 -		累計 リサイクル率(%)	100.0	100.0	-	100.0	96.6	92.1	93.4	94.3	95.1	95.6	96.0	96.4							
			累計目標 80.0 達成率		評価	〇	〇	-	〇	〇	×	〇	〇	〇	〇	〇	〇				総括	同上	同上	
			累計実績 96.4 120.5%																					
環境性能の向上及び	事業活動による取組み	営業グループ 織田 誠一	①環境に配慮した施工	環境に配慮した施工	目標	環境に配慮した施工	低騒音・低振動機械の使用	8月	①環境配慮型の建設機械が使用されていることを確認した。	引き続き適正管理を継続する。														
			1)低騒音型・低振動型建設機械の使用	環境に配慮した製品販売・技術提案	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	低燃費型機械の使用	11月	②低燃費型機械の提案と販売・提案のペーパーレス化が実施されていることを確認した。	同上		
			2)低燃費型建設機械の使用	環境に配慮した製品販売・技術提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	2月		同上		
			②環境に配慮した製品販売・技術提案	環境に配慮した施工	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施				
			1)低燃費型機械の提案	環境に配慮した製品販売・技術提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案	低燃費型機械の提案				
			2)販売・提案のペーパーレス化	環境に配慮した製品販売・技術提案	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化	ペーパーレス化				
			評価	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	総括	同上	同上	
人材育成の強化及び	技術力の向上	営業グループ 織田 誠一	①技術・技能の継承	技術・技能の継承	目標	技術・技能の継承	人材の確保	8月	①新人募集のため、求人広告の掲載を開始した。	引き続き適正管理を継続する。														
			1)人材の確保	技術・技能の継承	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育	社内教育					
			2)社内教育による技能の継承	各種資格の取得	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	資格取得の支援	11月	①引き続き新人募集に努める。	同上		
			②各種資格の取得	技術・技能の継承	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加	技能講習の参加				
			1)工事関連資格取得の支援	技術・技能の継承	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	人材確保・社内教育の実施	2月	②社員3名が土木施工管理技士試験、1名が電気通信工事施工管理技士試験を受験した。	同上	
			2)技能講習への参加	各種資格の取得	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施	資格取得支援・技能講習参加の実施				
			評価	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	総括	①新たに新入社員を1名採用し、社員数は28名になった。	同上	
化学物質使用量削減	化学物質の適正管理	工事・技術グループ 谷口 悟	対象化学物質の使用状況の確認	化学物質の把握	目標	化学物質の把握	カタログ・仕様書等で含有量を把握する対象物質不使用製品への置換えの検討	8月	対象物質が適正管理されていることを確認した。	引き続き適正管理を継続する。														
			化学物質の管理	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認	保管状況の確認					
			使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	使用量の確認	11月	同上	同上		
			注)建設機械等はレンタル品を使用しているため、弊社での重油等の排出はありません。	化学物質の把握	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施	含有量の確認の実施				
			化学物質の管理	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	保管状況・使用量の確認の実施	2月	同上	同上	
			評価	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	総括	同上	同上	

V. 環境経営活動の取組み結果の評価、次年度の取組内容

(1)省エネルギー

①二酸化炭素総排出量

調整後排出係数：中国電力 0.521 kg-CO₂/kWh（令和2年度）

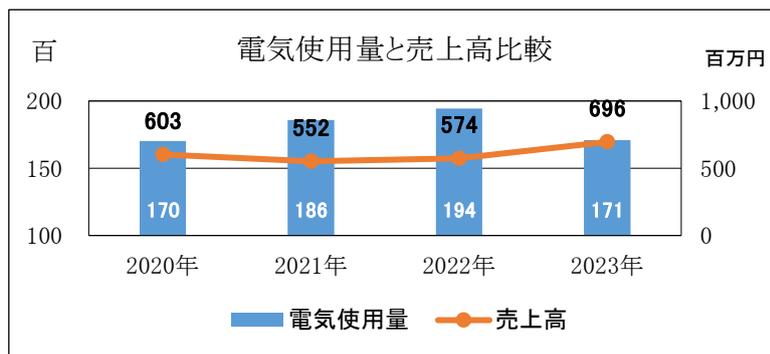
総排出量=64,793 kg-CO₂

②電力の二酸化炭素排出量削減

電気使用量の削減を具体的目標とする

結果

項目	単位	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 数値目標	2023年度 実績	評価 (判定)
低圧電力	kWh	4	2	2	1	○
従量電灯B	kWh	18,584	19,439	19,245	17,087	○
総電力量	kWh	18,588	19,441	19,247	17,088	○
CO ₂ 廃出量(実排出)	kg-CO ₂	9,684	10,128	10,027	8,903	○



★電力使用量とCO₂排出量は基準年より減少し、目標を達成できた。

- ・気候の影響(夏季の冷房と冬季の暖房により、使用量が増減することが考えられるが、2022年度ベースを維持して、より削減していくことが必要となる。

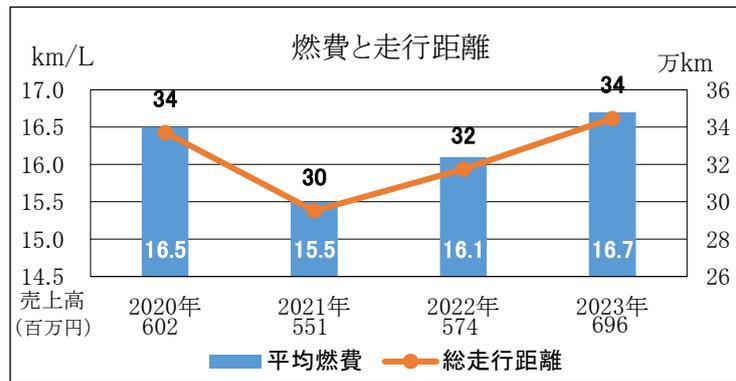
③自動車の燃費向上

ガソリンの使用量削減によるCO₂排出量の削減を目標とする

ガソリンの使用量は、年度の業務量により増減するため、燃費向上により使用量削減とする。

結果

項目	単位	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 数値目標	2023年度 実績	評価 (判定)
総走行距離	km	295,183	317,553	-	344,739	-
総ガソリン給油量	ℓ	19,087	19,755	19,557	20,669	×
平均燃費	km/ℓ	15.5	16.1	16.3	16.7	○
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	44,281	45,831	45,373	47,953	×



★ガソリン使用量とCO₂排出量は目標値をやや上回り未達成であった。
 背景には売上高が前年の21%増しとなったうえ遠方の現場が増加した結果、
 営業活動から施工に至る範囲での車の使用状態が変化したためと思われる。

④その他排出量

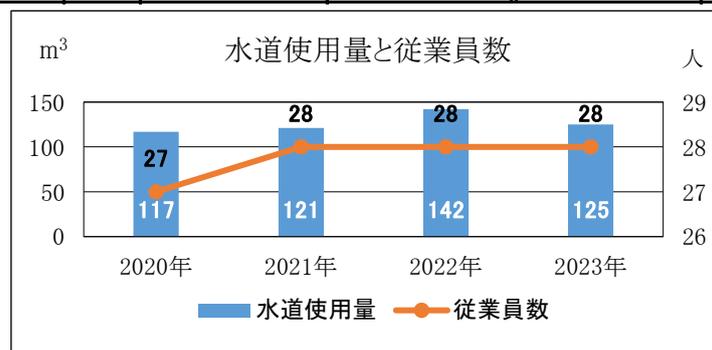
項目	単位	消費量	排出係数	単位発熱量 (MJ/l)	排出量 (kg-CO ₂)
灯油	ℓ	630	0.0679	36.7	1,569
建設現場等の購入電力	kWh	2152	0.521	-	1,121
建設現場等のガソリン	ℓ	622.1	0.0671	34.6	1,443
建設現場等の軽油	ℓ	1472.18	0.0187	37.7	3,798
都市ガス	m ³	2.8	0.0139	-	6
計					7,938

(2)省資源

①節水

節水により水道使用量を削減する
 結果

項目	単位	2021年度実績	2022年度実績	2023年度数値目標	2023年度実績	評価 (判定)
水道使用量	m ³	121	142	141	125	○
従業員数	人	28	28	-	28	-



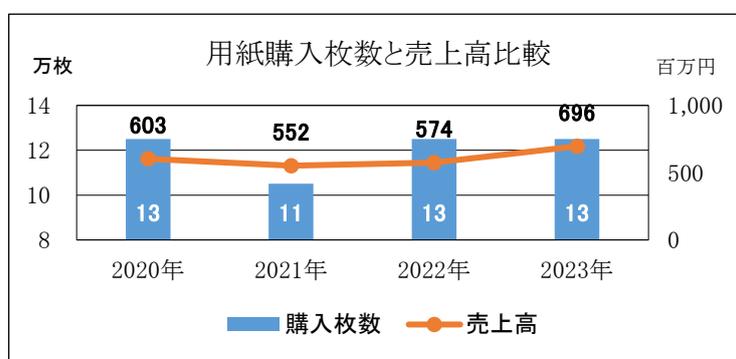
★水道使用量は2022年度より減少し、目標を達成できた。
現状の使用量を維持して、増加しないように日常の活動に注意していく。

②コピー・プリンター用紙の削減

A4・A3用紙の購入枚数を、削減することにより省資源化を図る

結果

項目	単位	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 数値目標	2023年度 実績	評価 (判定)
A4購入枚数	枚	95,000	125,000	123,750	120,000	×
A3購入枚数	枚	10,000	10,000	9,900	15,000	
合計	枚	105,000	135,000	133,650	135,000	



★コピー・プリンター用紙の購入量は基準年と同等だったが、目標値を達成できなかった。
今後とも、継続して再利用紙の活用、両面印刷による枚数削減、会議でのペーパーレス化を継続・推進して増加に歯止めをかけるようにしていく。

③コピーカウント数の削減

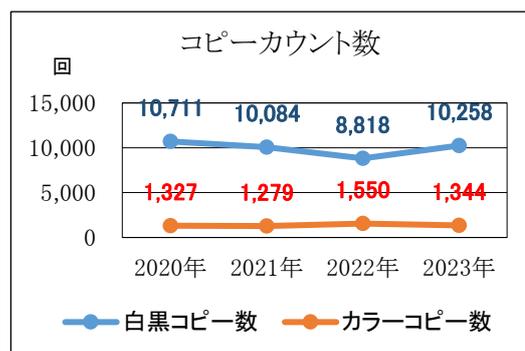
コピー数を削減することにより、用紙数の削減、コピー機の省エネ、インクカートリッジの使用量削減を行う。

結果

項目	単位	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 数値目標	2023年度 実績	評価 (判定)
白黒カウント数	回	10,084	8,818	8,800	10,258	×
カラーカウント数	回	1,279	1,550	1,500	1,344	○

★白黒コピーは前年度より増加したが、
カラーコピーは前年度より減少となった。

今後とも、継続して再利用紙の活用、両面
コピーによる枚数削減、会議でのペーパー
レス化を継続・推進していく。



(3) 廃棄物の管理

① 一般廃棄物(事務所系ごみ等)

産業廃棄物の分別として、専用容器を設置して分別を継続中
本社での廃棄物は、廃棄物処理委託契約により行っている。

混合ゴミ(可燃物、廃プラ)

電線、ケーブル類

金属類

年間排出量 = 1.3 t

② 工事現場での産業廃棄物(建設副産物等)

各工事単位で、必要に応じて産業廃棄物処理委託契約を行っている。

環境関連法規により適正に処分している

年間排出量 = 36.9 t

(4) 事業活動による取組み

取組みの方針

- a. 点検業務の促進による設備延命化で環境負荷の低減を図る
- b. 適正な整備(設備保全)により施設の稼働低下を防止して、環境への影響を低減する。
- c. 積極的な設計・技術提案により、環境改善を図る。
- d. 設備更新工事について積極的に活動して、設備改善を推進して環境改善を図る。

取組みの評価 : 前年度との比較で、同程度の割合およびアップ(微増)を目標とする。

① 見積件数に対する受注件数の割合

2021年度と2022年度の比較	見積り件数と受注工事数は増加となったが、小口物件の受注が多く、売上高は減少した。
2022年度(前半)と2023年度の比較	同等程度の比率で推移している。

- ②各環境項目ごとの年度単位での件数
見積件数、受注件数とも同程度で推移している。
(詳細数値の増減ではなく、全体を通しての割合とする)

次年度の取組み

(1)省エネルギー・省資源

①電気使用量の削減

2022年度の実績水準から増加しないよう不要な照明の消灯・不要な機器の電源OFF・エアコン設定温度の厳守(夏28℃・冬22℃)を呼びかける。

②自動車の燃費向上

引き続きエコドライブ運動に取り組み、目標達成に努める。

③節水

2022年度の実績水準を維持し、増加しないように意識付けを行う。

④コピー用紙の削減およびコピー数の削減

用紙購入枚数は、昨年と同水準で推移すると思われる。
継続して削減に努めるとともに、使用した用紙のリサイクル率向上に努める。

(2)事業活動による取組み

①環境に配慮した施工

- ・昨年度を継続する。
- ・各工事ごとに環境への取組みを、施工計画に取り入れていく。
- ・環境に配慮した施工・・・環境配慮型機器以外を極力使用しないことの徹底

②昨年度の継続

- ・点検業務の促進による設備延命化で環境負荷の低減を図る
- ・適正な整備(設備保全)により施設の稼働低下を防止して、環境への影響を低減する。
- ・積極的な設計・技術提案により、環境改善を図る。
- ・設備更新工事について積極的に活動して、設備改善を推進して環境改善を図る。

VI 環境関連法規等の取りまとめ

(1) 遵守状況

- ・環境関連法規への違反はありません。
- ・なお関係当局より違反等の指摘及び周辺住民からの苦情は、過去3年間ありません。

(2) 主な環境関連法規制等の評価

評価日 2024年6月3日

法規制等の名称	関係する条項等	該当する要求事項	遵守事項	実施時期	評価
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	第9条	コンクリート、アスファルト、木材など特定資材を用いる建築物を解体する際に廃棄物を現場で分別し、資材ごとに再利用することを解体業者に義務づける	・委託契約書の締結 運搬および処分 ・再生資源利用計画書及び実施書の提出 ・年次報告	都度	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第12条	元請が排出事業者として当該工事から発生する廃棄物全体について処理責任を負う	・委託契約書の締結 運搬および処分 ・マニフェスト発行および管理 ・年次報告	都度	○
騒音規制法	第14条 第15条	建設工事作業のうち、著しい騒音を発生する作業であって、政令で定める作業を規制対象としている	特定建設作業は作業を行う7日前に市町村長に届出を行う	都度	今回 該当なし
振動規制法	第14条 第15条	建設工事作業のうち、著しい振動を発生する作業であって、政令で定める作業を規制対象としている	特定建設作業は作業を行う30日前に市町村長に届出を行う	都度	今回 該当なし
消防法	第10条 第11条	危険物の貯蔵・取扱及び運搬に関する基準、危険物の貯蔵所の位置・構造及び設備について規制している。	対象危険物(取扱設備)を設置及び変更する場合は消防署に届出を行う	都度	○
フロン排出抑制法	第3条 第16条	第一種特定製品(業務用冷凍空調機器)において、3ヶ月に1回以上の簡易点検が義務付けられている。	空調機器の異常音及び外観の損傷・腐食・錆などの有無を点検する	3ヶ月に 1回	該当なし
省エネ法	第4条	エネルギー使用量の合計が1,500kL/年以上の事業者は届出が義務付けられている。	エネルギー使用量(原油換算値)を把握する	年1回	該当なし
道路交通法	第74条	5台以上の自家用自動車を保有する事業所において、安全運転の指導を行う者に年一回の講習参加が義務付けられている。	安全運転管理者の選任し、年一回の安全運転管理者等に対する講習を受講する	年1回	○

VII 代表者による評価と見直しの結果

当社は、省エネルギー・省資源化の意識が定着しつつあり、微力ながら環境活動に貢献しているものと感じています。

事業活動での、電気使用量削減は二酸化炭素排出量削減に繋がり、自動車の燃費向上はガソリン使用量の削減によりCO₂排出量削減に繋がることになるものとして取り組んでいます。また、省資源への取り組みとして、節水、紙使用量削減、コピー数の削減等を行っています。

しかし、当社の会社規模から省エネルギーおよび省資源化を、これ以上推進していくには限度があることから、現状ベースを維持していくことが最適と考えています。

昨年度は、目標に対して諸条件の変動があり、数値目標が未達となった部分があります。これは売上が増加した結果と考えられます。

昨年度の結果を基に目標値の再設定を行い、今後は、昨年度実績を超過しないよう努力すると共に、目標数値の達成を目指します。

事業活動による環境取り組み方針は、毎年度、同レベル以上が継続されており今後も継続して拡大していきます。

今後の取り組みとして昨年度に引続き、下記を積極的に行っていきます。

- ・省エネルギー,省資源化の推進
- ・環境に配慮した事業活動の維持拡大

以上の環境活動を積極的に行ってまいります。